

環境学習コーディネート実施概要（Web掲載）

依頼No	31	事例No	20	依頼者	アクティオ株式会社	実施場所	あいち環境学習プラザセミナー室
実施対象	アクティオ関係者で、環境施設スタッフ 15名						
実施日時	平成31年3月11日(月)13時30分～15時30分（1時間50分(10分休憩)）						
テーマ	環境施設スタッフのスキルアップの講座として、子どもを対象にした講座の実施。愛・シンパシーワークショップ ～動物の気持ちになってエコを考えてみよう～						

●依頼内容

自施設以外のプログラムに触れる機会が少ないため、子どもを惹きつける話し方を学べる他施設の講座を受講したい。

●講師：アースネットなごや今井光代氏

アースネットなごやは、地球環境と調和した永続可能な社会をめざしながら平和な社会の実現を願い活動している団体である。今井氏は、地域の環境グループ「エコライフエコちゃん」などの地域活動や児童デイサービスの保育士をしながら市民講師としても活躍中で、環境施設のスタッフの皆さんが子どもを惹きつけるスキルを向上させるための講師に適任であると考え推薦した。※今回の「森の仲間たち」以外にも、川の仲間たち、海の仲間たち等様々なゲームの用意がある

●授業の内容

ワーク ショッ プの 実 施	講師のあいさつ	講師・今井氏の自己紹介	2分
	森の仲間たち (カードゲーム 1、2、3)	生き物によって食べられるものが違うことを示したカードを各自首にかけてゲームをスタート。各自カードを伏せて、トランプの神経衰弱の要領でゲームを行う。第1ゲームは、二枚合わせ、第2ゲームは人間が参加して、いろいろなものを有利に持っていく。さらに、ブラックカードを加えた形で第3ゲームが進められた。	45分
	森の仲間たち (カードゲーム を実施後のま とめ)	ゲームのまとめとして、ブラックカードに関する感想を尋ねたり、人間や生き物の活動に関して、意見や感想を発表した。 この際に、生き物の視点で人間の万能感について感じられる体験となった。	45分

●授業の様子

共感・シンパシーというキーワードについて説明があった後、ゲームが進められました。参加者は生き物や人間に変身してエサカードをとりながら、生き物によって食べられるものの種類が多かったり、少なかったりすることを学びます。ゲームをしながら、人と動物の関係を実感できるようになっており、さらに、ゲーム後、感想について講師とやり取りすることで学びを深められるよう授業が進められました。ゲームによって人間と自然とのかかわりを体感しながら進められた講座は、環境施設のスタッフにとって、子どもとの向き合い方を学ぶ機会になったものと思われます。終了後も、講師と受講者の間で個別の質問が交わされていました。

■シンパシーというゲームのキーワードを含め、ゲームの進め方の説明をする講師



■首に掛けたカードを確認しながら、ゲームがすすめられ、カードが揃う度に歓喜の声が響いた

